

支部訪問 (1) 横須賀支部

弘報部 黒川 鈴谷

【平成 25 年 10 月記録】

友松会の組織には 42 の支部、国大と東京の 2 支部を加えると 44 もの支部があります。ですから役員でない普通の会員には、自分が所属する以外の支部のことはほとんど分かりません。しかし他の支部の実情を知ることは自分の支部の活動の参考になるのではと考え、この企画を考えました。以下はその第一回目として、横須賀支部を訪ねた時の記録です。



横須賀市域絵図

10 月 18 日、横須賀支部の見学研修会と夕刻からの懇親会に参加し、歩いたり飲んだりする間に支部長さんをはじめ、支部の会員の皆さんとお話をしました。

その数日前に支部長の八田羽さんに電話して取材を依頼した折に、18 日に研修会と懇親会をするというのを聞いて、頼んで参加させて貰ったのです。

研修会はいかにも横須賀支部らしく小原台の「防衛大学校見学」で、その後は旧陸軍の海岸砲台跡をめぐるしました。懇親会は午後 5 時半から横須賀市内の会場で行われました。

この研修会も懇親会もとても楽しかったのですが、それを詳しく述べるのは本稿の目的ではありませんので割愛します。以下は、支部長さんから研修会の折に山道を歩きながら聞いたり懇親会の席で伺ったこと、資料として頂いた「横須賀友松会ニュース No19」や今年度の「横須賀友松会総会議案書」に書いてあること及び後日電話や手紙で伺った事などを、読みやすいように対談の形に直して記述したものです。

対 談 横須賀友松会の現状を語る。

語り手 横須賀友松会々長 八田羽 栄一 (昭和 35 年卒)

聞き手 友松会 弘報部 黒川 鈴谷 (昭和 35 年卒)

黒川 八田羽支部長さんとは昭和 35 年国大卒の同期生であることに甘えて研修会や懇親会など支部の行事にも参加させて頂いたのですが、ありがとうございました。今日の研修会には 20 人ほどの会員が参加されましたが、校内会員の参加はありませんでしたね。平日ですから当然ですが。

八田羽 いや、本当は校内会員も参加できるように、前期と後期の中間休みとなる 16 日にやる予定だったのです。でも台風の為に二日延期して今日になったのです。

黒川 そうですか。16 日だったら横須賀の現職の会員とも会えたのに、残念でした。

八田羽 ところで友松会の支部は 40 以上あるのに、横須賀支部をまず一番に訪問されたのは何故ですか。



防大正門の受付で

黒川 それは端的に言って友松会費の納入率が、横須賀支部はとても良いからです。お手元の資料は、経理部から発表された会費納入人数を基に、百分率に直したものです。この資料は常任理事会の内部資料を基にしているの、ホームページに全面的に載せるわけにはいきませんが。

八田羽 それで、横須賀の会費納入状況は他支部と比べてどの様なものなのですか。

黒川 友松会全 42 支部の中で、校内会員の会費納入率は九割以上で第 2 位、校外会員の会費納入率も九割近くで第 7 位です。

八田羽 校内会員の 2 位はともかくとして、校外会員は 7 位なんですか。

黒川 確かにそうなのですが、校内会員の納入率が良くても校外会員の納入率はずっと下がって 30% 台という支部もありますし、その逆の支部も有ります。ところが横須賀は校内会員も校外会員も、どちらの納入率もバランス良く高水準にあります。そういう点で横須賀支部は優れています。特に校内会員の納入率がこんなに良いのは何故なのでしょう。横須賀支部の現職の会員が特別意識が高いのでしょうか。

八田羽 特別に意識が高いかどうかは別として、支部の体制として校内も校外も会員から会費を集めるのに、工夫はしています。

黒川 それはどのような工夫ですか。

八田羽 これは今年の 8 月に発行した「横須賀友松会ニュース」No.19 ですが、10 ページと 11 ページを見ると分かります。ここには今年度の地区委員と学校委員の氏名が載っています。いま横須賀には校内会員が 161 名、校外会員が 228 名居ますがこの地区委員と学校委員が友松会の会費を集めるのです。



防大本部庁舎前で 横須賀友松会の皆さんと

黒川 その「地区委員」とか「学校委員」というのは、どんな役目の人なのですか。

八田羽 地区委員は居住する地区ごとに OB 会員の中から選ばれます。校外会員に連絡したり会費を集めたりするのは、この地区委員です。学校委員は現職の中から各学校 1 名選ばれ、その学校の会員から会費を集めます。集まった会費は OB 会員が各学校に出向いて学校委員から受領します。

黒川 成る程、そういう組織がちゃんと出来ているのですね。私も磯子支部で「支部だより」を配るとき、各学校での責任者を委嘱して他の会員には、その人から配ってもらう事にしました。もっと



旧軍の砲台跡に通じるトンネル

私の場合には一方的にお願いをしたので、ちょっと問題が残るでしょう。その点で横須賀支部はきちんと体制内の組織にそういう人が位置づけられているので問題はありませんね。ところで今気が付いたのですが、このニュースにしても横須賀の総会の議案書にしても、「友松会横須賀支部」でなく、「横須賀友松会」となっていますね。そうすると今日私は、「横須賀支部」でなく「横須賀友松会」をお訪ねしたのですか。

八田羽 そうです。横須賀友松会です。まあ、対外的には友松会本部に対して支部という関係になります。

黒川 その「横須賀友松会」という名称は、いつ頃からあるのですか。

八田羽 さあ、正確には知りませんが、私が昭和 35 年に国大を卒業して就職した頃にはもうありました。

黒川 そうすると横須賀友松会は、少なくとも 50 年以上は存在しているのですね。今年度の総会次第の文書を見ても、24 年度の事業報告から 25 年度事業計画・予算案に至るまで整然と並んでおり、「横須賀友松会会則」まで付いているのには吃驚しました。これでは友松会傘下の支部というより独立組織の感じですね。

八田羽 独立組織というと少し差しさわりが有りますが、本部に先駆けていろいろなことをやってきたという自負の念はあります。

黒川 それは例えばどんなことですか。

八田羽 例えば本部が卒寿の会員を表彰を始める前に、横須賀では傘寿の表彰をしていましたし、88 歳以上の会員の会費を免除したのも横須賀が先です。後では本部に合わせて表彰と会費免除をどちらも 90 歳にしましたが。

黒川 この横須賀友松会役員名簿を見ると、顧問・参与・会長・副会長・監事・会計・庶務・常任理事・理事と、本部の役員構成とほとんど変わりませんね。特に理事が 20 人常任理事が 11 人いて、この合計 31 人のうちに昭和 40 年以後の卒業生が 13 人もいるのは羨ましいですね。「横須賀友松会会則」の中に、「理事は理事会を組織し、会務を審議する」とあり、「常任理事は会務を執行する」とあります。この点は友松会本部の会則と同じですが、違う所は「役員名簿」の下の部分に[常任理事の会務分担]とあり、研修(3 名)・会費徴収(2 名)・広報(3 名)・集い(3 名)と分担別に氏名が記されています。任務分担が明快で分かりやすいです。今日の「見学研修会」は研修担当の 3 名の方が企画立案して今日の世話もなさったのでしょう。懇親会の方はどの係の方がなさったのですか。



三笠公園

八田羽 それは「集い係」の者です。

黒川 あ、なるほど。懇親会は「集い」ですからね。

もう一つ、私の所属する横浜ブロックの支部と比べて感じるのは、支部の構成員の人数が校内・校外合わせて 389 名と多くて良いなあということです。何といっても人数が多ければ、人材もたくさんいることになりますからね。特に校外会員が 228 名もいるのは大きいです。

横浜ブロックの各支部は構成員の数が横須賀よりもずっと少なく、しかも校外会員の数が校内会員よりも少ない支部が多いですね。こういう点から考えると、横浜などは幾つかの支部を統合して大きな支部にした方が良くもありませんね。ところでちょっとお聞きしますが、横須賀市では教職員の人事異動はどんな範囲で行われているのですか。

八田羽 横須賀は政令指定都市ではありませんが中核都市なので、教職員の人事は横須賀市教委が行っています。ですから異動の範囲は特に希望しない限り、市内の学校に限られます。その代わり教員の研修も横須賀独自で行っています。

黒川 それは土地に馴染みが出来ると言う点で、とても良いですね。横浜の場合は広い市内の何処にでも異動する可能性が有りますから、土地に馴染みがない良く知らない所へ異動する可能性が高いのです。異動すれば友松会の支部もそれによって変わりますから、支部にも馴染みがなかなかできないわけです。

そう言う点から考えても、現在の支部をもう少し大きな支部に統合した方が良いのではないかな。横須賀の場合、現職の時に勤務校が市内ならばほぼ必然的に市内に居住し、退職後も市内に住んで校外会員になるのでしょう。



久里浜のペリー上陸記念碑

八田羽 だいたいそういう例が多いですね。ただ一部は市外に居住する人もあります。でも横須賀の会員ですが。

黒川 羨ましいなあ。私はなんだか横須賀の会員になりたいくなりましたよ。

八田羽 でも、横須賀友松会もいろいろな問題点を抱えています。

黒川 それはどんなことですか。

八田羽 最大の問題点は、会員の減少と高齢化ですね。地区委員をお願いしても、もう健康に不安が有るから出来ないと言われる場合も出てきています。ですから私など地区委員として、1人で他の13人の会員への連絡を受け持っています。現職会員にお願いする学校委員も、なかなか引き受けてくれないことが有ります。

校内会員の新会員が少ないのも、悩みの種です。今年度の新会員は僅かに6人でした。新会員以外でも、市内の小学校46校のうち会員が1人もいない学校が6校あります。残り40校のうち半数以上の22校が、会員数1~2名です。中学でも事情は似たようなもので、25校のうち5校には会員がいません。ほとんどの中学の会員は1~2名で、3名以上いるのは2校だけです。

黒川 やはりそれぞれの地区には、それぞれの悩みが有るものですね。もっとも、会員数の減少は横須賀以外の支部でも同様だと思いますが。

しかし地区委員や学校委員の人選に困るという悩みは有るにせよ、横須賀の場合は組織がきちんとあることから生じる悩みでもあるので、そういう体制が整っていない支部から見れば、羨ましい悩みですね。また、その制度や組織を使って確りと活動されていることも良く分かりました。ただ、今日は現職の会員の方とは会えなかったもので、その方たちが友松会に所属していることの意義をどうとらえているか分からないのでちょっと残念でした。現職の、特に若い人たちの心をどうとらえていくか、そこに友松会の未来がかかっていると思いますから。本日はお話を伺ってとても参考になりました。どうもありがとうございました。

